福島民報　2019年8月19日付9面

子どもと女性の健康相談室

41

カップルで禁煙 大切

福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授
高橋　俊文氏

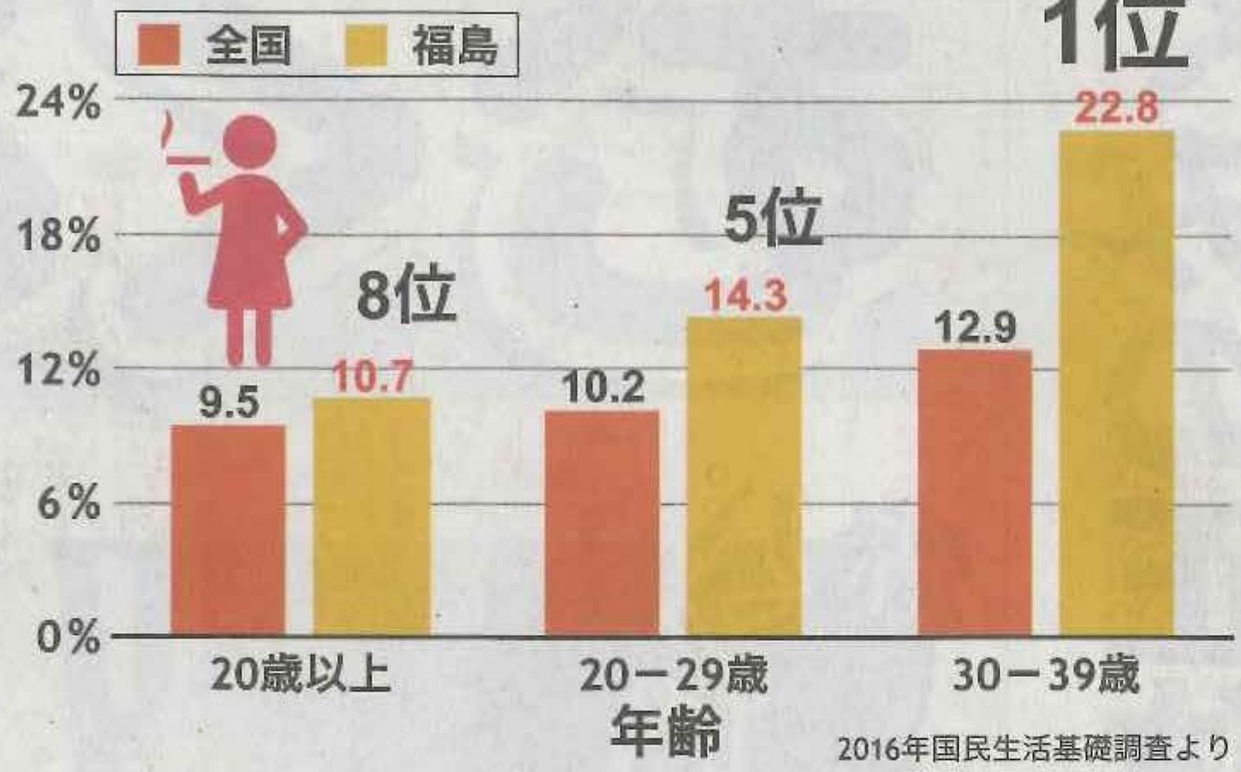
喫煙と不妊症

今回は喫煙と不妊症について話をします。喫煙は「タバコ」を吸う行為ですが、喫煙により、がん、肺の病気、胃の病気、心臓・血管の病気などさまざまな健康被害が起こります。喫煙は、自分だけでなく周りの人たちにも健康被害を与えます。

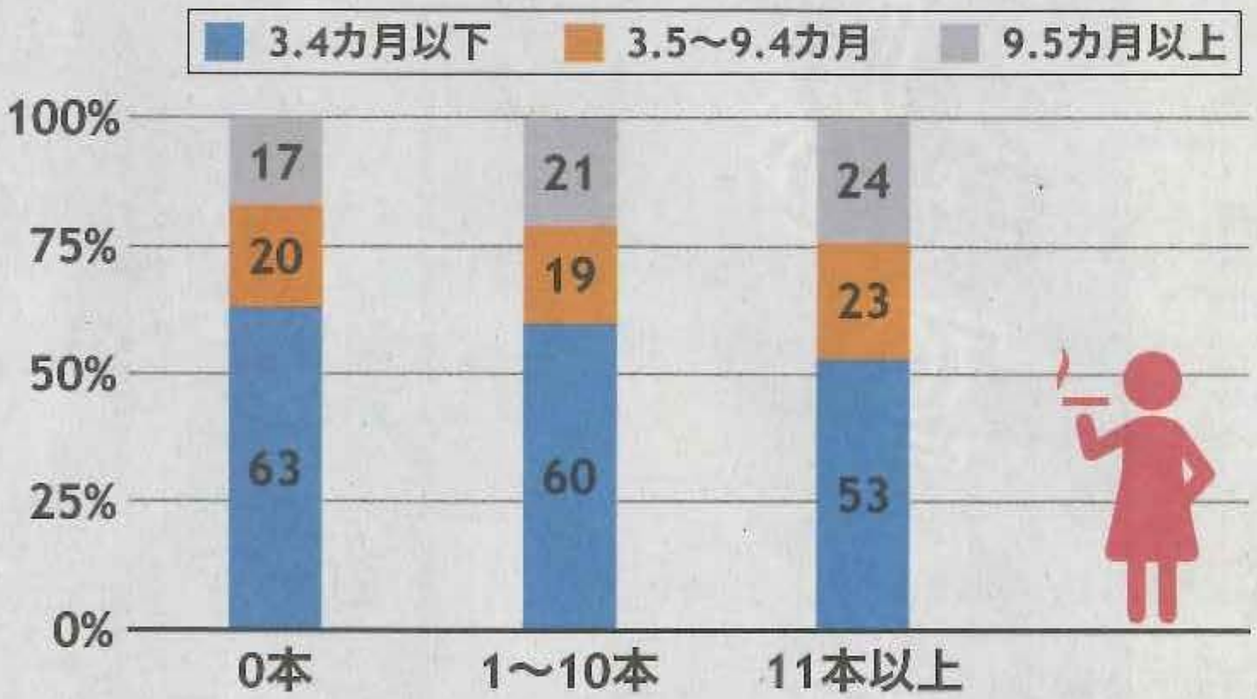
福島県の喫煙率は全国的に見て男女ともに高いです【図・上】。喫煙率の全国平均は19・8％で、福島県は22・4％で全国四位です。福島県の喫煙率は、二十歳代（二十～二十九歳）が14・3％で全国五位、三十歳代（三十～三十九歳）では22・8％と全国一位です。男性は34・4％で全国五位、女性は10・7％で全国八位です。若い女性の喫煙は妊孕（にんよう）性（妊娠しやすさ）に悪い影響を与えます【図・下】。妊娠を希望する女性が喫煙していると、喫煙している期間とタバコの本数が増加するに従って、妊娠までの期間が延長します。喫煙者の女性は非喫煙者に比べ、妊娠を希望して一年以上妊娠しない不妊症のリスクが一・六倍になります。体外受精治療を受けている不妊カップルを対象として行われた喫煙と妊娠率に関する研究では、非喫煙者カップルの妊娠率が48％であったのに対し、女性または男性のいずれかが喫煙者の場合の妊娠率はそれぞれ19％、20％と半分以下に低下しました。

妊娠しても喫煙していると、母体だけでなく生まれてくる赤ちゃんにも悪い影響が起こります。妊娠を希望する女性だけでなく男性も協力して喫煙を止めるようカップルで協力していくことが大切です。

＝次回は9月16日掲載＝



2016年国民生活基礎調査より



Bolumar et al. Am J Epidemiol 1996

ふくしま子ども・女性医療支援センター
http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/